

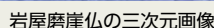
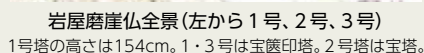
vol.
478

ほうきょういんとう

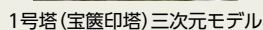
磨崖仏が彫られた中世後期の

如來、金剛薩埵（金剛界）の
 種子が刻まれています。一番下
 にある基礎部に彫られた銘文を
 見ると、この塔は故人の三十三
 回忌のために作られたことがわ
 かります。年号はわかりません
 が、年号に続く十千十二支の
 「丁卯」だけ残っています。

『太宰府市史』によると、1号塔は3号塔に比べて新しい時期に彫られており、造塔年代は干支・丁卯から、嘉禄元（138



このような色情報を抜いた三次元画像をソリッドモデル
といい、モノの形を観察する場合に有効な技法です。



7) 年か文安4 (1447) 年ぶんあんと推定しています。今回改めて検討したところ、1号塔の特徴が細身、隅飾りが外反、周辺が粗雑な彫り窪めなのに加えて、基礎部の横幅が狭く縦に長いことを加味して、文安4 (1447) 年よりさらに後の永正4 (1507) 年の時期と判断しました。また、石塔塔身に刻まれている仏を示す種子が、三十三回忌の本尊とされる不 (Trah・タラーク・虚空蔵菩薩こくうざうばさつ) ではないことも注目する点です。江戸

時代に広まる三十七回忌では、
 アク・金剛薩埵が本尊のため、
 この石塔は三十七回忌が定着す
 る前の過渡期の様相が表れてい
 るとも考えられます。

磨崖仏が彫られた中世後期の
 太宰府は、少弐氏・大内氏・太
 友氏などの勢力争いの中で、目
 まぐるしく主が変わる戦乱の時
 代でした。石塔銘文には「大
 姉」とあり、女性を追善供養し
 たものと思われます。戦乱の厳
 しい時代に聖地・四王寺山に宝
 篋印塔を作ることができたのは
 どのような人々だったのか、ま
 た供養された女性はどのような
 人物だったのでしょうか。興味
 は尽きません。

※岩屋磨崖仏は急斜面にあるため、見学は安全に十分留意してください。

文化財課
高橋 たかはし
学 まなぶ

訂正・お詫び
令和7年2月号「太宰府の文化財477刀伊の入寇」の掲載図に誤りがありました。訂正内容は、ホームページ(ID39164)をご覧ください。



リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。